人間関係研究（南山大学人間関係研究センター紀要）, 21, 1-1

# オンライン授業と格闘した２年間

南山大学教職センター　**宇　田　　光**

2020年は新学期に入る前から、オンライン授業への対応に追われた。とにかく遠隔での授業が成立するように、短期間での準備を余儀なくされる。オンライン授業に必須の様々な仕組みを学び、ICT機器を揃え、失敗もしながら慣れていった。Zoomも最初はなかなか思うようには使えず、情報センターに度々サポートを受けた。

継続は力なりである。2021年になると、慣れて自信もつき落ち着いてきた。手書きとワープロが混在するレポートも、ウエブ上の窓口から受け取って採点できる。「コロナのおかげで何かと不便なこともあるし、不自由だけれど悪いことばかりでもないな」と思える余裕が生まれた。オンラインでの活動が普及したおかげで、良かったと思えることは少なくない。

①　遠方で開催される学会、ウエビナーなどでも、オンラインやハイブリッドの形態に変わったため、ハードルが低い。わずかな時間を活用して、気軽に参加するようになった。

②　オンライン会議が定着し、資料がPDFファイルに置き換わって机まわりがすっきりした。しかも、場所を選ばず参加できるようになった。

③　オンライン授業の経験を生かして、これを機に遠隔授業の関連でいろいろ調べたりもしたため、論文も２本書けた（バーチャルスクールの現状と課題：(1)「米国のVSはなぜ失速したのか」、(2)「にわかバーチャルユニバーシティは次世代大学に脱皮できるか」、教職センター紀要６号、７号）。

④　せめて密にならない空間に行こうと、近所の公園を家族で散策できた。これまで公園を利用する機会は少なかったが、意外に楽しめることがわかった。

本学は通信制大学ではないので、対面授業が今後も基本となるだろう。それでも、受講生からは「オンライン授業を増やして欲しい」という声もある。確かに、朝寝坊ができるのは、多くの学生には嬉しい所だろう。本当にキャンパスまで足を運ぶ意味があると納得できる大学にしていかなくてはならない。